

# 三田文学ライブラリー 45 年の経緯

たにふじ ゆ み こ  
谷藤優美子

(三田メディアセンター係主任)

## 1 はじめに

森鷗外, 久保田万太郎, 佐藤春夫, 水上瀧太郎…。慶應義塾にゆかりのある著名な文筆家は数多い。主に『三田文学』誌上で活躍したこうした作家たちの初版本や貴重な自筆原稿, 書簡などを集めたのが, 慶應義塾図書館の特殊文庫「三田文学ライブラリー」である。しかしその経緯やコレクションの内容は, スタッフにもあまり知られていない。このたび 30 年ぶりに『三田文学ライブラリー目録』を発行したことを機に, あらためて本ライブラリーについて書き記しておきたい。

## 2 発足の経緯

慶應義塾図書館には, 戦前から, 作家の水上瀧太郎や, 英文学者・随筆家の戸川秋骨, 馬場孤蝶らの蔵書が寄贈されていた。また, 『三田文学』にゆかりのある泉鏡花の蔵書や原稿, 遺品も, 昭和 16(1941)年と 17(1942)年の二度にわたり寄贈を受けていた。このように, 三田文学ライブラリーのベースとなる資料は, 当時からすでに所蔵されていたと言えるのだが, 昭和 20(1945)年 5 月の戦災の影響もあり, 戦後しばらくこの特殊文庫は実現できないままとなっていた。

昭和 37(1962)年, 慶應義塾は, 久保田万太郎から没後著作権のすべてを譲られることとなった。それは久保田が逝去する前年のことで, 前例のないことであった。それを受けて昭和 38(1963)年に設置された「久保田万太郎記念資金委員会」では, 久保田の全著作物や資料の整理・保管, 全著作物の公刊, そして印税その他の収入による記念事業を行うことが決められた。

昭和 41(1966)年 1 月, この久保田委員会の委員でもあり, 当時図書館長でもあった佐藤朔文学部教授が「三田文学ライブラリー」構想を表明, 同年 5 月の久保田委員会にて資金援助を求めた。そして久保田基金から差し当たり 100 万円の援助を受けられることとなり, 同年 8 月, 「三田文学ライブラリー設立趣意書」を配布するにいたったのである。『三田文

学』が復刊されたことや, 佐藤春夫全集が刊行されたこと, 久保田万太郎全集発行が予定されていたことなども契機となった。慶應義塾に関係のある文筆家の著作を蒐集することへの機運が高まっていたことが影響したといえる。

設立時は, 物故作家 43 名に, 存命だった芸術院会員の堀口大学, 西脇順三郎, 獅子文六, 高橋誠一郎の 4 名を加えた, 計 47 名を対象としていたが, 初年度中にさらに 7 名が追加されたことで, 第一期蒐集作家として 54 名を対象とすることとなった(表 1)。第 2 回の発起人会において, 久保田資金より更に 100 万円の追加援助を得て, 購入や寄贈で資料蒐集に努めた。

その後も久保田資金から何度か援助を受けたが, 平成 14(2002)年で終了となり, 現在資料を購入する場合は, 図書館の予算を充てている。

表 1. 第一期蒐集作家 54 名 (\* は初年度中に加えられた人 7 名のうち 6 名, 1 名は不明)

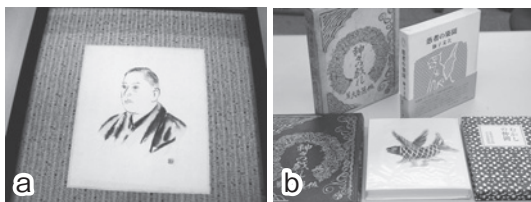
|             |            |
|-------------|------------|
| 馬場孤蝶        | 森鷗外        |
| 茅野蕭々        | 森田思軒       |
| 後藤末雄 (* )   | 永井荷風       |
| 原民喜         | 南部修太郎      |
| 樋口克彦        | 成瀬無極       |
| 広瀬哲士 (* )   | 西脇順三郎      |
| 堀口大学        | 野口米次郎      |
| 岩田豊雄 (獅子文六) | 大場白水郎      |
| 泉鏡花         | 岡鬼太郎       |
| 加藤道夫        | 奥野信太郎 (* ) |
| 勝本清一郎 (* )  | 折口信夫       |
| 北村小松        | 小山内薫       |
| 小泉鉄         | 太田咲太郎      |
| 小泉信三        | 佐藤春夫       |
| 久保田万太郎      | 沢木四方吉      |
| 蔵原伸二郎       | 庄司総一       |
| 黒岩涙香        | 杉山平助       |
| 丸岡明 (* )    | 高橋広江       |
| 前田越嶺        | 高橋誠一郎      |
| 正木不如丘       | 戸川秋骨       |
| 増田廉吉        | 津村信夫       |
| 松本泰         | 上田敏        |
| 水上瀧太郎       | 山川方夫       |
| 南川潤         | 矢野龍溪       |
| 三宅周太郎 (* )  | 矢崎弾        |
| 水木京太        | 与謝野鉄幹      |
| 榎山梓月        | 吉川静雄       |

三田文学ライブラリー設立の経緯および久保田万太郎記念資金については、さらに詳しく書かれた文献があるので参照されたい<sup>1)2)</sup>。

### 3 資料の特徴

コレクションは寄贈や購入により増加してきたが、なかでも泉鏡花や久保田万太郎関連資料は充実している。また、作家の署名入り本や、部数限定の特別装丁本なども少なくない。さらに図書については、図書館の一般蔵書とは違い、請求記号ラベル等の添付や修理・再製本を行わず原装のまま保存しており、凝った外箱や美しいデザインのカバーがそのまま残されている。こうした特徴から、昭和63(1988)年から始まった早稲田大学図書館の『明治期刊物集成マイクロフィルム版』の撮影にも、泉鏡花や森鷗外の著作など三田文学ライブラリーの蔵書の一部が利用されている<sup>3)</sup>。

また、図書以外にも、自筆原稿・書簡のほか、美術資料などもあり、書幅や、鏗木清方による水上瀧太郎の肖像画(色紙)なども所蔵している。



### 4 整理・保存

三田文学ライブラリーでは、昭和42(1967)年11月と昭和43(1968)年4月に手書きの冊子体目録を作成している。昭和44(1969)年5月には、それらをまとめた『三田文学ライブラリー目録』を刊行した。その後は、昭和54(1979)年3月末現在の増加目録がまとめられたままとなっていた。

当初、蒐集した資料は現在の旧図書館八角塔に陳列・保管された。書架や照明、ブラインドなど施設設備が十分ではなかったことから、昭和42年9月に改装をしたという記録がある。昭和57(1982)年、図書館新館が竣工した後は、新館地下5階の閉架書庫に移された。

平成8(1996)年に、三田文学ライブラリーの管理・運用が正式に三田メディアセンターに移管されたからは、図書については遡及目録入力が進められ

た。その後、地下5階の閉架書庫を開架に変更する必要が生じたため、配置場所を移動せざるをえず、平成10(1998)年頃、コレクションは研究室棟地下2階の閉架書庫に移動、さらに平成21(2009)年には再整理の上、新館に戻し、地下1階保存庫に保管することとした。配置場所は転々としたが、ようやく安住の地を得たことになる。

### 5 利用

前述のとおり、三田文学ライブラリーは原装保存を旨とした特殊文庫であるため、非公開を原則としている。ただし代替資料がなく、研究のために必要と認められる場合は、所定の手続きを経て閲覧に供している。閲覧するためには、学内の学部学生および大学院生は指導教授の推薦を、また、学外者の場合は所属機関からの申込みを必要としている。館外貸出やコピーは認めていない。

### 6 その他の事業

資料を蒐集するほかに、三田文学ライブラリーでは出版事業を手掛けたことがある。昭和43(1968)年に「三田文学ライブラリー叢書」の構想が持ち上がり、翌年に『回想の石丸重治』が出版された。以後、『随筆慶應義塾：エピメーテウス抄』(1970)、『奥野信太郎回想集』(1971)、『文学と人間の言語』(1974)、『回想の厨川文夫』(1979)、『回想の西脇順三郎』(1984)、『切山椒：附久保田万太郎作品用語解』(1986)が刊行されている。

### 7 2009年以降

このようにして資料蒐集・運営してきた三田文学ライブラリーだが、寄贈資料の中には、蒐集対象とはしがたいと考えられるものもさまざま含まれ、どのような資料をどこまで集めてゆくかという原則を再確認する必要が生じていた。

そこで平成20(2008)年、図書館および久保田資金担当常任理事を主幹として、文学部国文学専攻教員、『三田文学』編集長、三田メディアセンター事務長をメンバーとした「三田文学ライブラリー検討ワーキンググループ」を結成し、あらためて蒐集対象について検討することとした。その結果、物故作家に限定すること、慶應卒または勤務歴がある、もしくは『三田文学』に長く関わっていたことなどを

条件とし、106名を「三田の文人」として蒐集の対象とすることに決定した(表2)。いずれも『日本近代文学大事典』(講談社、1984)に収録されている著名人ばかりである。

蒐集する図書は、本人著作の文学作品および批評・エッセイとした。本人の著作に限定するため、その作家の伝記や研究書は蒐集の対象外とする。また、文学作品および批評・エッセイを対象とすることは、たとえば高橋誠一郎を例とした場合、彼のエッセイはライブラリーに含めるが、経済研究書は含めないということになる。

この決定を受けて、三田メディアセンターでは、これまで蒐集した資料から、あらためて蒐集対象となる資料を抜き出し、対象外となった資料は一般書に変更するなどの整備を行った。このたび刊行した目録に収録されているのは、性格付けが明確となった再整理後の図書・資料である。

## 8 おわりに

2010年、『三田文学』は創刊100年を迎えた。秋に開催された記念の展覧会には、三田文学ライブラリー所蔵資料も多数出品された。その効果か、ご遺族から新たに資料寄贈のお申し出をいただくこともできた。三田文学ライブラリーは、一般利用は制限

されているものの、目録の刊行を機に、その重要性が広く知られ、内外の研究の進展に寄与することが期待される。

## 引用文献

- 1) 石川博道. 三田文学ライブラリー—その生い立ちから今日まで—. KULIC. no. 12, 1979, p. 36-38.
- 2) 佐藤朔. 久保田資金の歩み. 三田評論. no. 839, 1983, p. 80-81.
- 3) 風間茂彦. 三田文学ライブラリーのマイクロフィルム化. ふみくら. no. 27, 1990, p. 8.

## 参考文献

- 1) 三田文学ライブラリー設立について(塾内ニュース). 三田評論. no. 653, 1966, p. 84.
- 2) 三田文学ライブラリー目録. 八角塔. no. 1, 1967, p. 12. (発足から5ヶ月間で蒐集したものの目録)
- 3) 小田切進. 三田文学ライブラリー(文庫・文学館を歩く). 東京新聞. 夕刊. 1980.10.13, p. 7.
- 4) 田中正之. 三田文学ライブラリーに寄贈された和木清三郎氏遺愛旧蔵書(寄付金慶應義塾維持会申込者芳名). 三田評論. no. 784, 1978.
- 5) 田中正之. 三田文学ライブラリーと寄贈資料(寄付金慶應義塾維持会申込者芳名). 三田評論. no. 833, 1983.

表2. 2010年度発行目録の対象者

|       |       |        |       |       |       |
|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| 青柳瑞穂  | 尾崎行雄  | 久野豊彦   | 庄司総一  | 永井荷風  | 南川潤   |
| 芥川比呂志 | 小山内薫  | 久保田万太郎 | 杉山平助  | 成瀬無極  | 三宅周太郎 |
| 池田潔   | 折口信夫  | 久米秀治   | 高石真五郎 | 南部修太郎 | 村野四郎  |
| 池田弥三郎 | 鍵谷幸信  | 蔵原伸二郎  | 高橋誠一郎 | 西脇順三郎 | 村松梢風  |
| 石川淳   | 片岡鉄兵  | 黒岩涙香   | 高橋広江  | 野口富士男 | 靱山梓月  |
| 石坂洋次郎 | 勝本清一郎 | 小泉信三   | 瀧口修造  | 野口米次郎 | 森鷗外   |
| 泉鏡花   | 桂芳久   | 小泉鉄    | 田久保英夫 | 馬場孤蝶  | 森田思軒  |
| 上田敏   | 加藤道夫  | 小島政二郎  | 竹越三又  | 馬場辰猪  | 矢崎弾   |
| 内村直也  | 金子光晴  | 後藤末雄   | 多田智満子 | 原民喜   | 矢野龍溪  |
| 宇野信夫  | 木々高太郎 | 小室案外堂  | 田中千禾夫 | 広瀬哲士  | 山川方夫  |
| 梅田晴夫  | きだみのる | 小山祐士   | 田辺茂一  | 堀田善衛  | 山本健吉  |
| 江藤淳   | 北原武夫  | 薩摩忠    | 茅野蕭々  | 堀口大學  | 夢野久作  |
| 遠藤周作  | 北村小松  | 佐藤朔    | 津村信夫  | 正木不如丘 | 与謝野鉄幹 |
| 太田咲太郎 | 清崎敏郎  | 佐藤春夫   | 戸板康二  | 松本泰   | 吉田小五郎 |
| 大場白水郎 | 草野心平  | 沢木四方吉  | 東海散士  | 間宮茂輔  | 吉野秀雄  |
| 岡鬼太郎  | 草森紳一  | 獅子文六   | 戸川残花  | 丸岡明   | 龍胆寺雄  |
| 岡田隆彦  | 楠本憲吉  | 柴田錬三郎  | 戸川秋骨  | 水木京太  |       |
| 奥野信太郎 | 邦枝完二  | 島村元    | 富田正文  | 水上瀧太郎 |       |